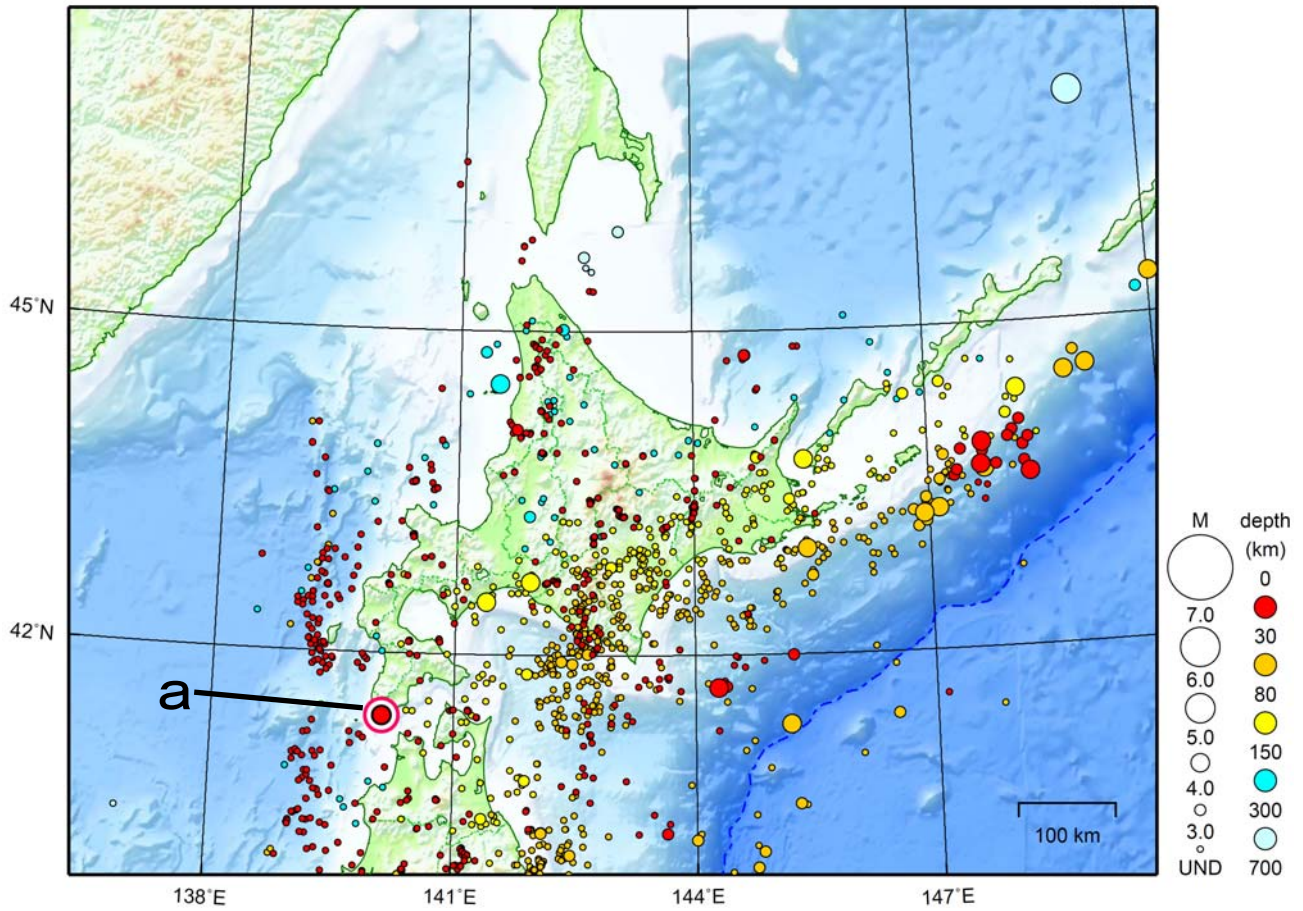


# 北海道地方

2009/07/01 00:00 ~ 2009/07/31 24:00

N=1371



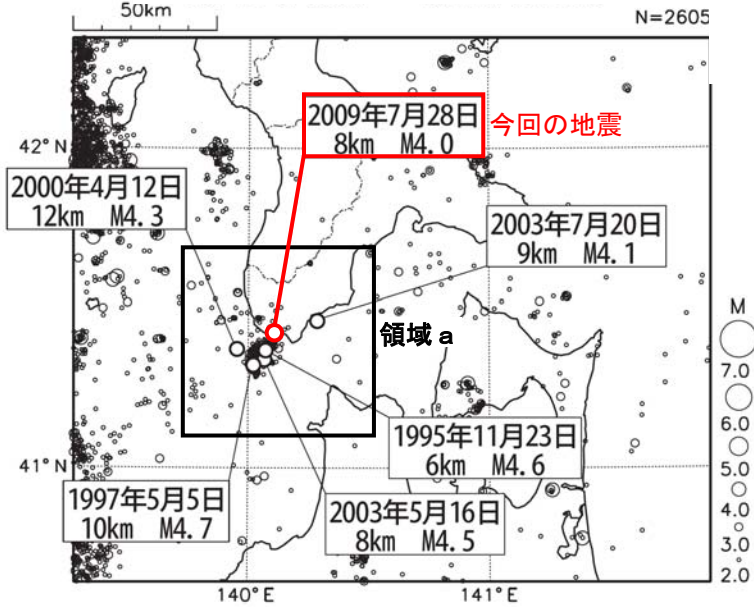
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 7月28日に北海道南西沖(松前沖)でM4.0の地震(最大震度4)があった。

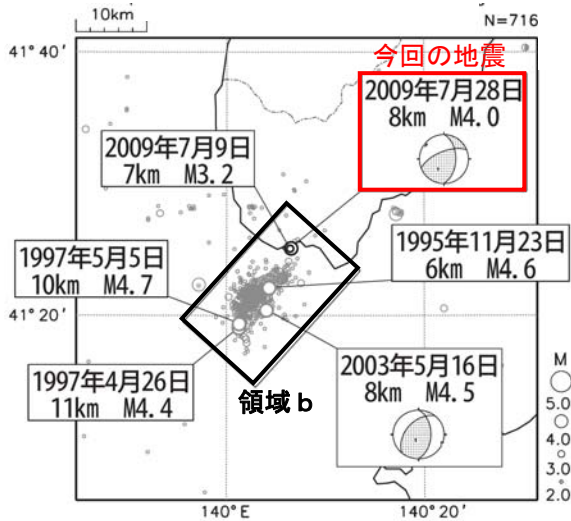
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 7月28日 北海道南西沖（松前沖）の地震

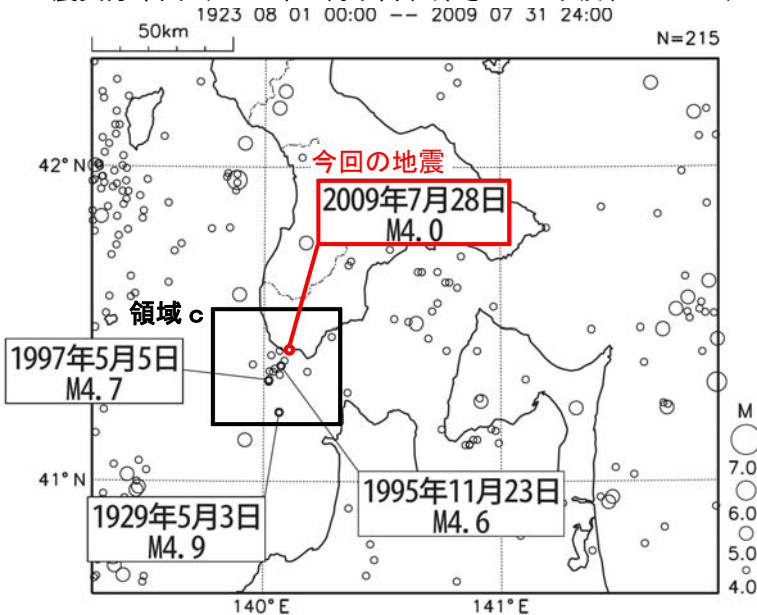
震央分布図（1995年1月以降、深さ30km以浅、M≥2.0）



領域 a の拡大図 ※2009年7月以降を濃く表示



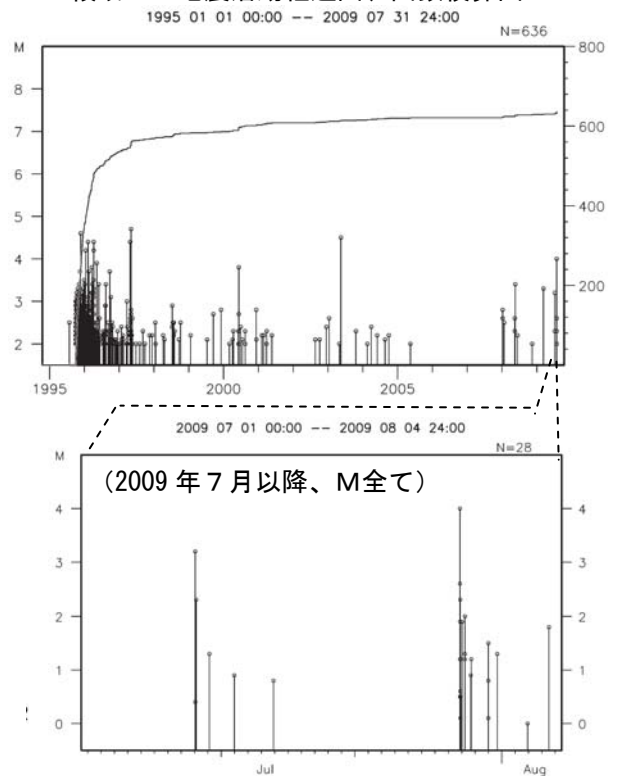
震央分布図（1923年8月以降、深さ50km以浅、M≥4.0）



2009年7月28日20時52分に北海道南西沖（松前沖）の深さ8kmでM4.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、地殻内で発生した地震である。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ型であった。本震直後には震度1を観測した余震が2回発生したが、29日以降は震度1以上を観測した余震は発生していない。なお、今回の地震の震源とほぼ同じ場所で、7月9日にM3.2の地震（最大震度2）が発生している。

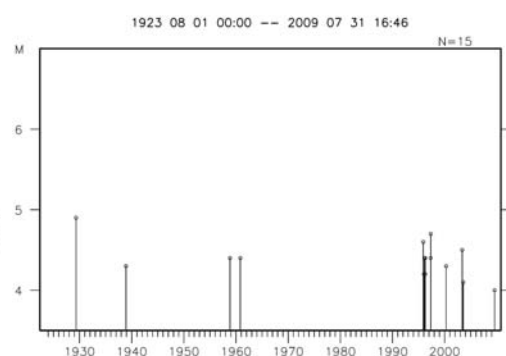
今回の地震の震源付近（領域 b）は、1995年10月から1997年頃にかけてM4.0以上の地震が7回発生するなどのまとまった地震活動（最大規模の地震は1997年5月5日のM4.7の地震（最大震度3））があった場所である。

領域 b の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺（領域 c）では、M5.0以上の地震は発生していない。

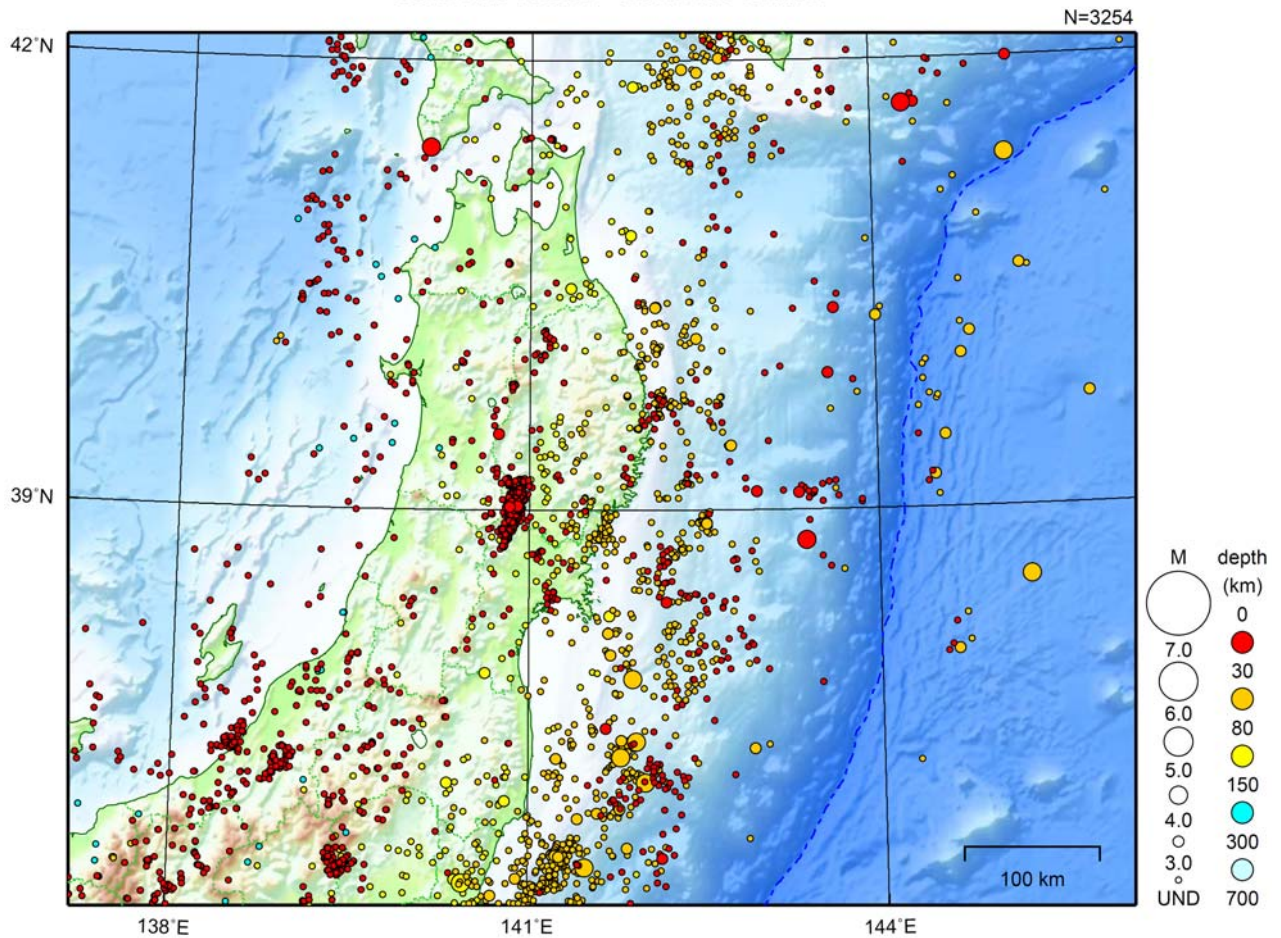
領域 c の地震活動経過図





# 東北地方

2009/07/01 00:00 ~ 2009/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

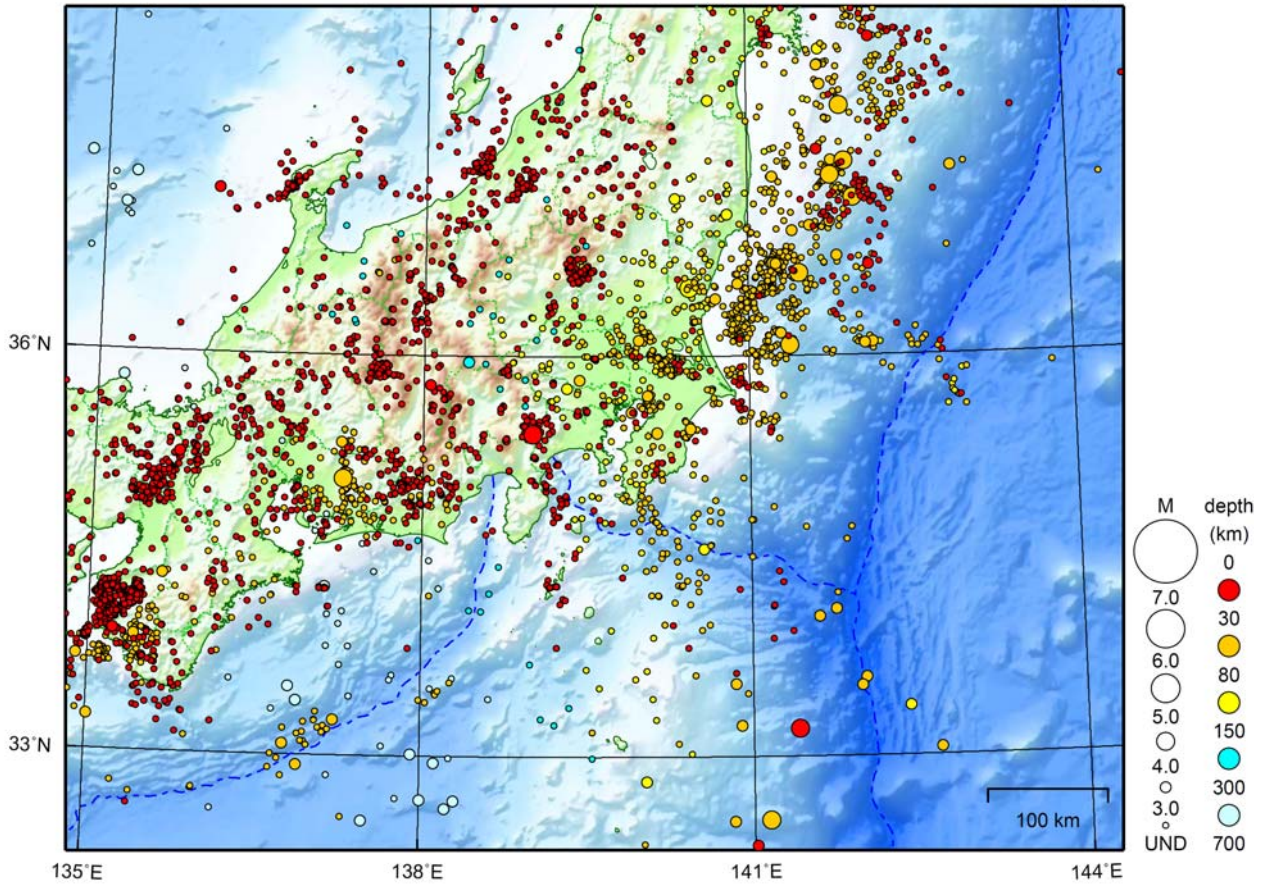
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

# 関東・中部地方

2009/07/01 00:00 ~ 2009/07/31 24:00

N=4313



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

8月2日に新潟県下越沖でM4.9の地震(最大震度3)があった。

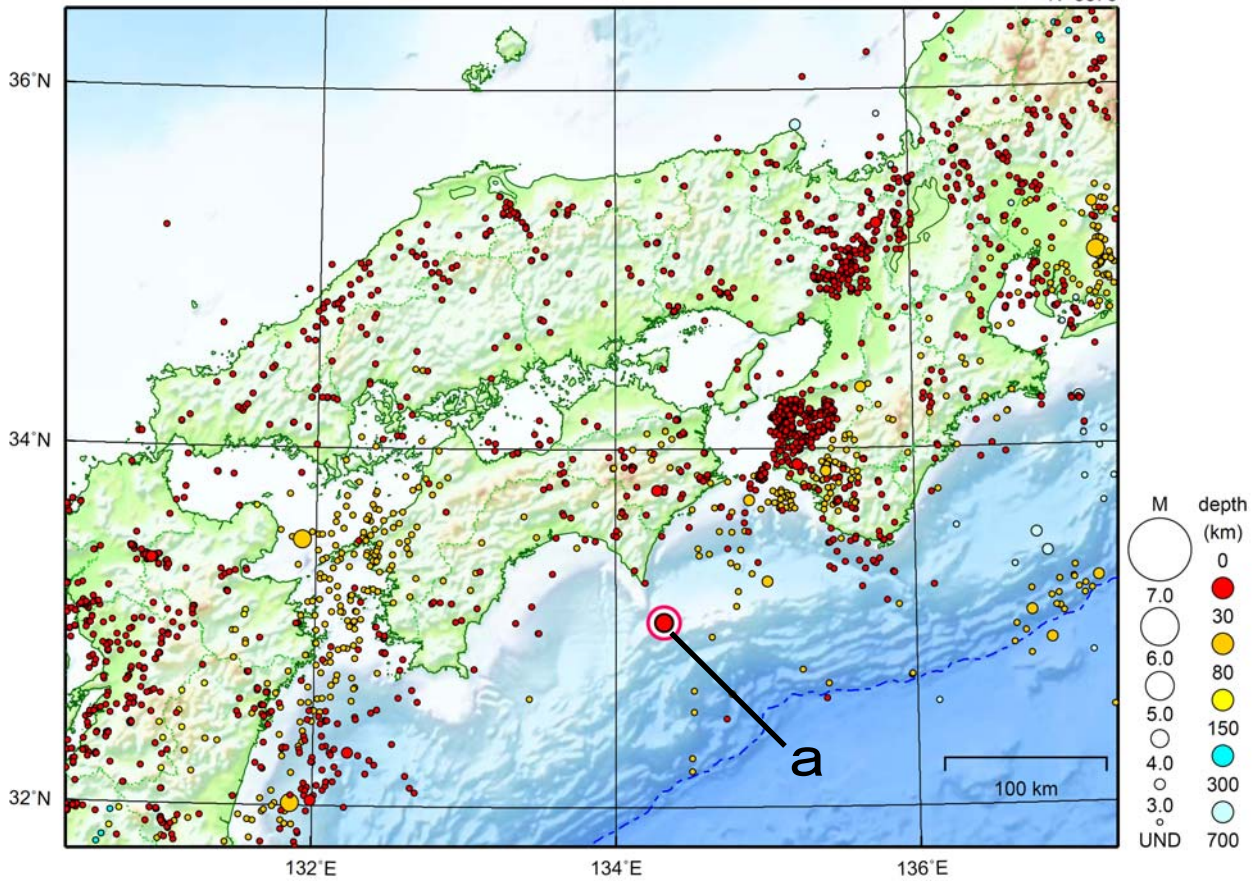
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]



# 近畿・中国・四国地方

2009/07/01 00:00 ~ 2009/07/31 24:00

N=3876



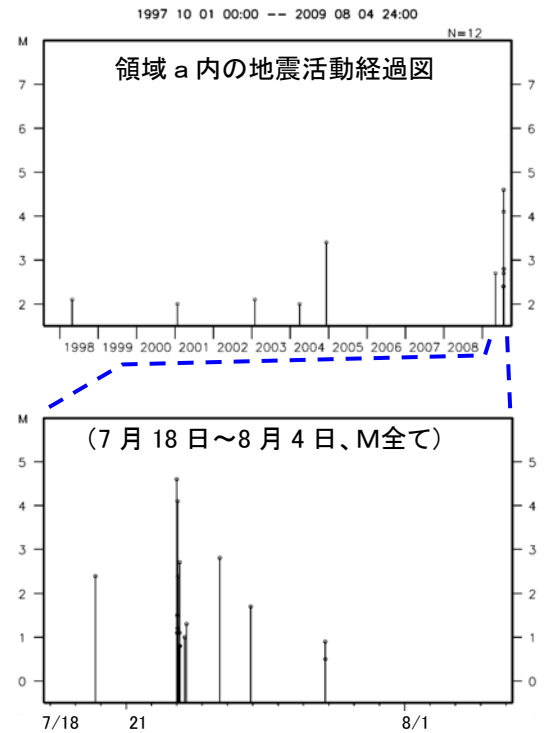
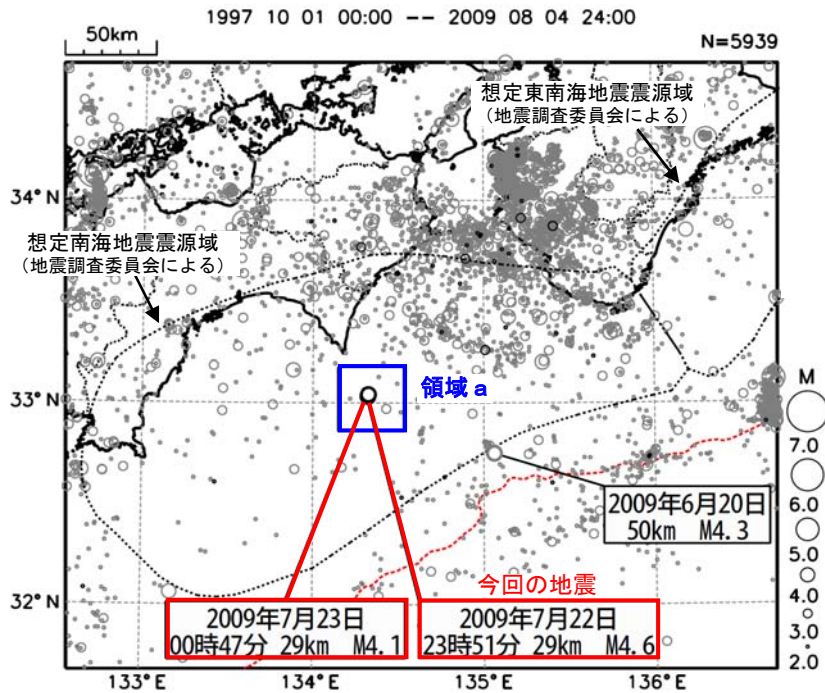
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 7月22日に四国沖(室戸岬沖)でM4.6の地震(最大震度4)があった。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 7月22日 四国沖（室戸岬沖）の地震

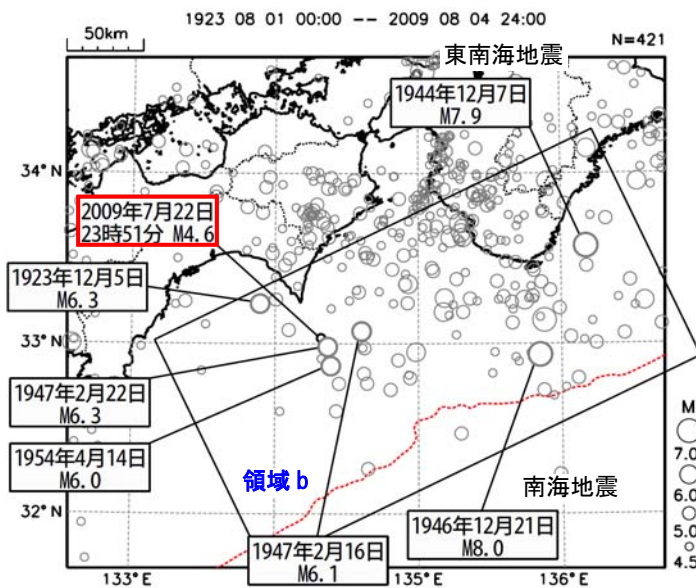
震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ 、深さ0~60km）



2009年7月22日23時51分に四国沖（室戸岬沖）の深さ29kmでM4.6の地震（最大震度4）が発生した。また、この地震の約1時間後の23日00時47分にも、ほぼ同じ場所でもM4.1の地震（最大震度3）が発生した。なお7月28日以降、余震は発生していない。

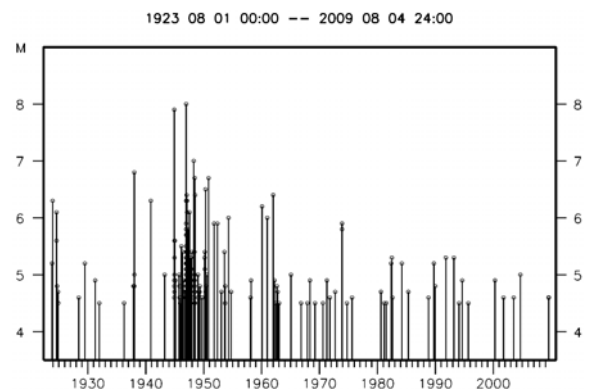
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M4.0を超える地震は発生していなかった。

震央分布図（1923年8月以降、深さ0~60km、 $M \geq 4.5$ ）



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域b）では、昭和南海地震（1946年：M8.0）の前後でM6.0を越える地震が発生していたが、1960年代以降、M6.0を超える地震は発生していない。

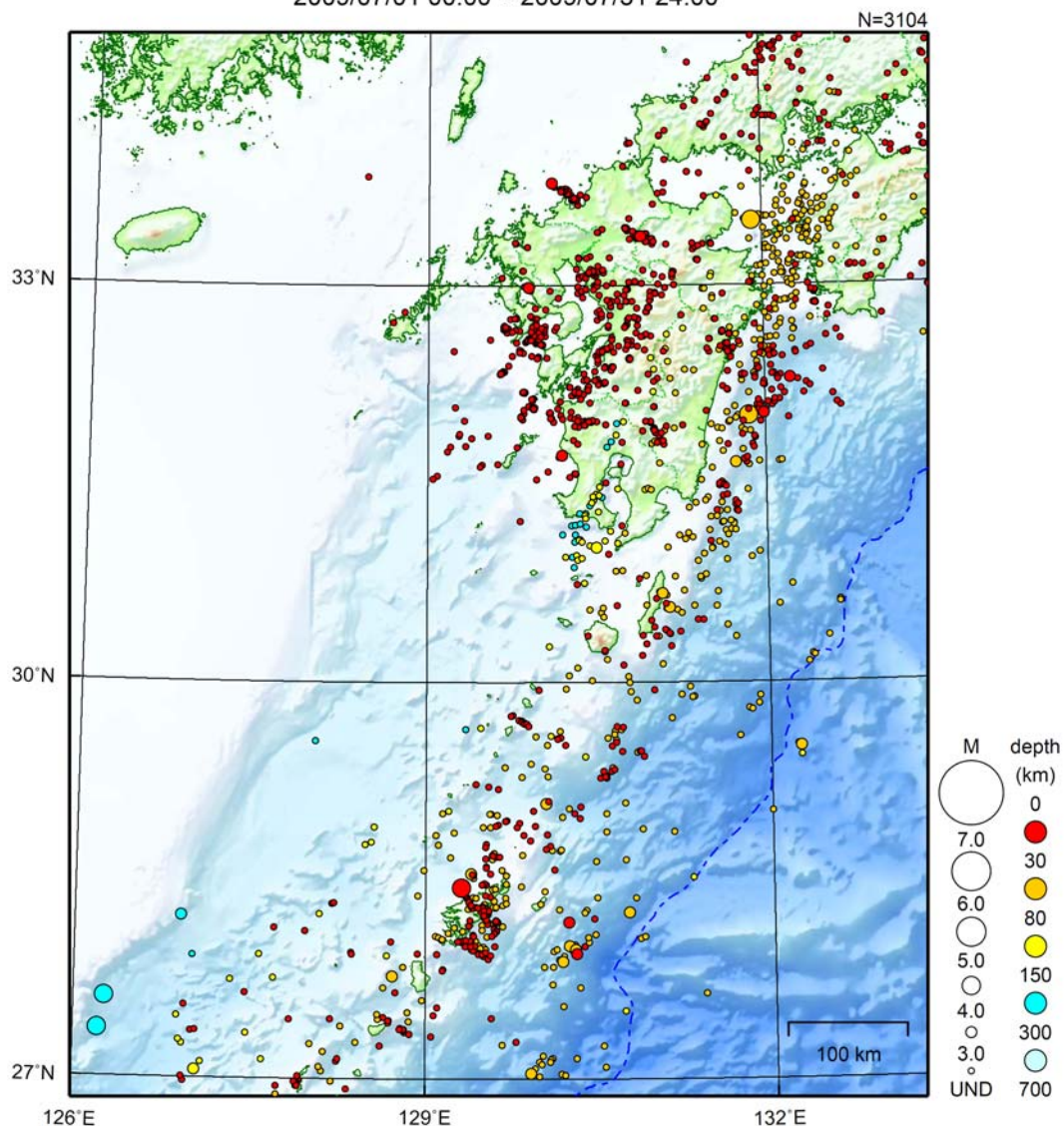
領域 b 内の地震活動経過図（ $M \geq 4.5$ ）





# 九州地方

2009/07/01 00:00 ~ 2009/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

8月3日に熊本県天草・芦北地方で M4.7 の地震 (最大震度 4) があつた。

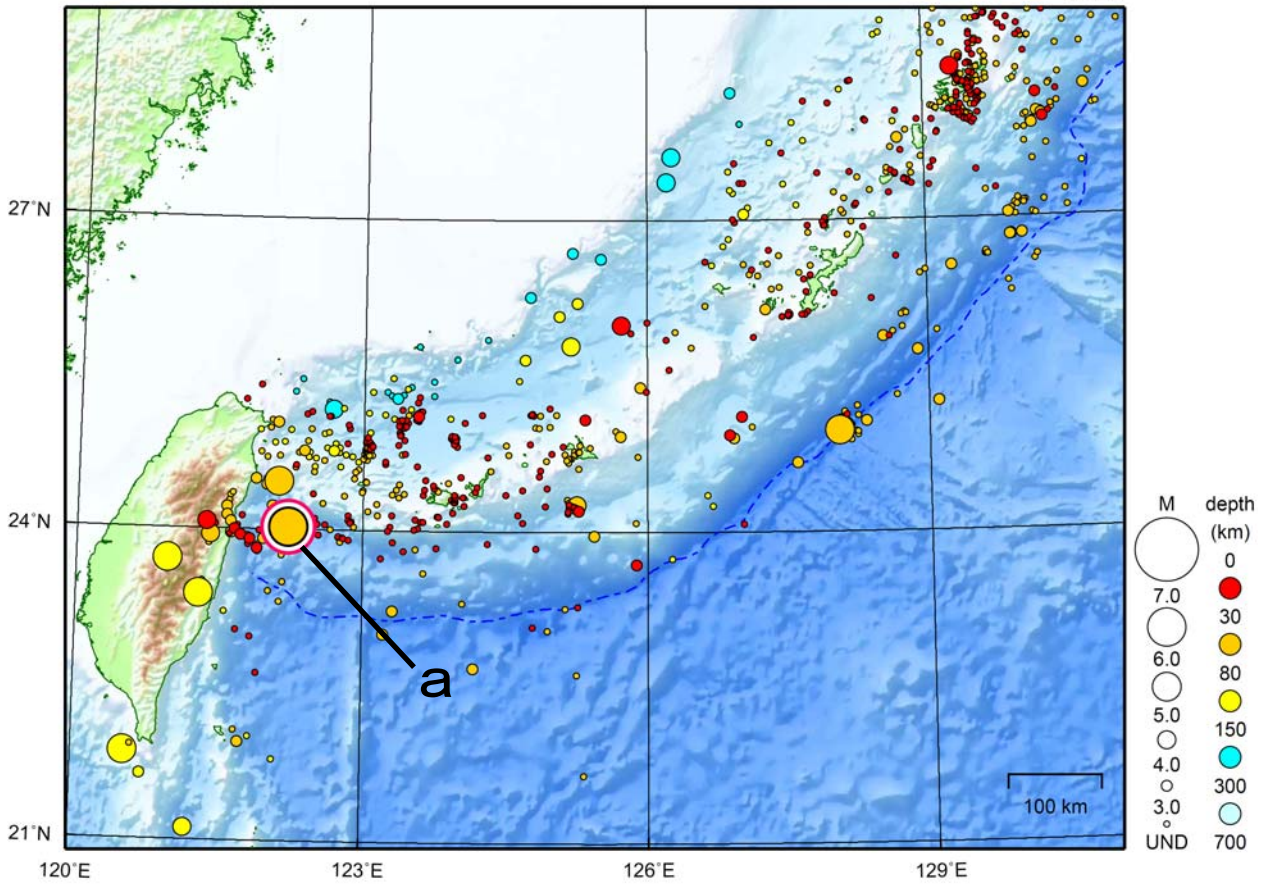
8月5日に日向灘で M5.0 の地震 (最大震度 4) があつた。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

# 沖縄地方

2009/07/01 00:00 ~ 2009/07/31 24:00

N=857



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 7月14日に台湾付近で M6.5 の地震 (最大震度3) があつた。

(上記期間外)

8月5日に宮古島近海で M6.5 の地震 (最大震度4) があつた。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]



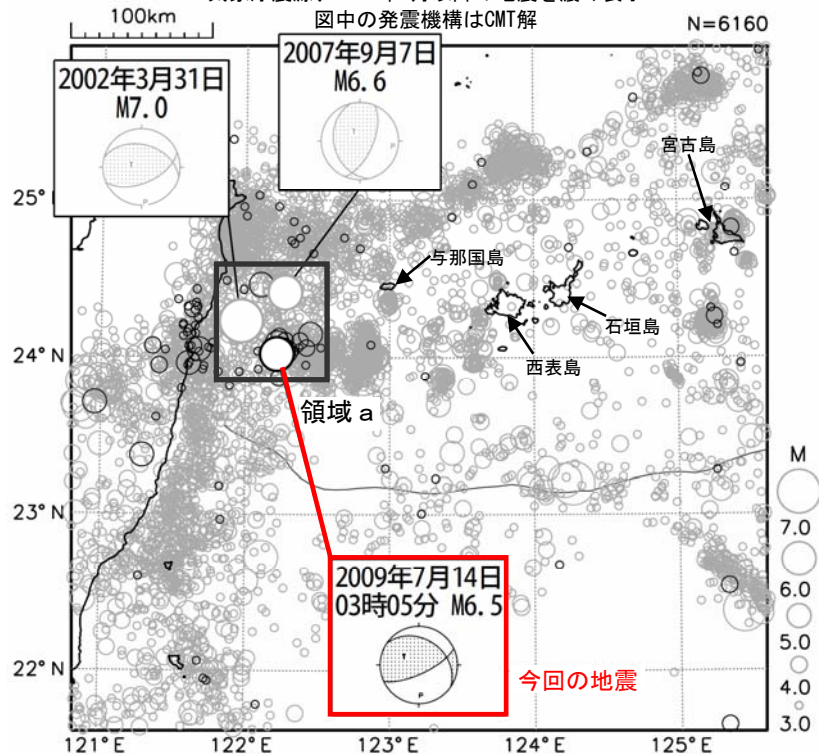
# 7月14日 台湾付近の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2009年7月31日、深さ0～120km、 $M \geq 3.0$ )

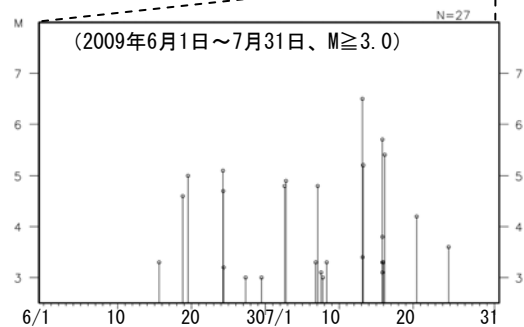
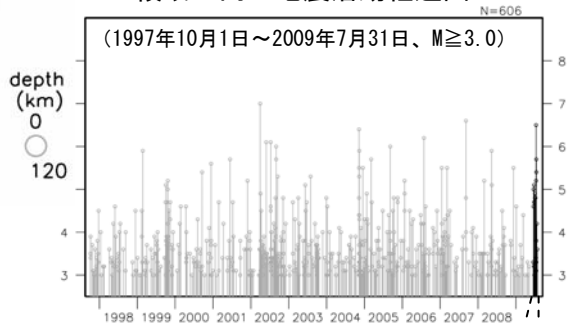
気象庁震源、2009年6月以降の地震を濃く表示

図中の発震機構はCMT解



2009年7月14日03時05分に、台湾付近でM6.5の地震（国内最大震度3）が発生した。発震機構は南北方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。今回の地震の震源付近（領域 a）では、6月下旬頃からM5.0前後の地震が数回発生しており、活動がやや活発な状態であったが、7月21日を最後にM4.0以上の地震は起きていない。

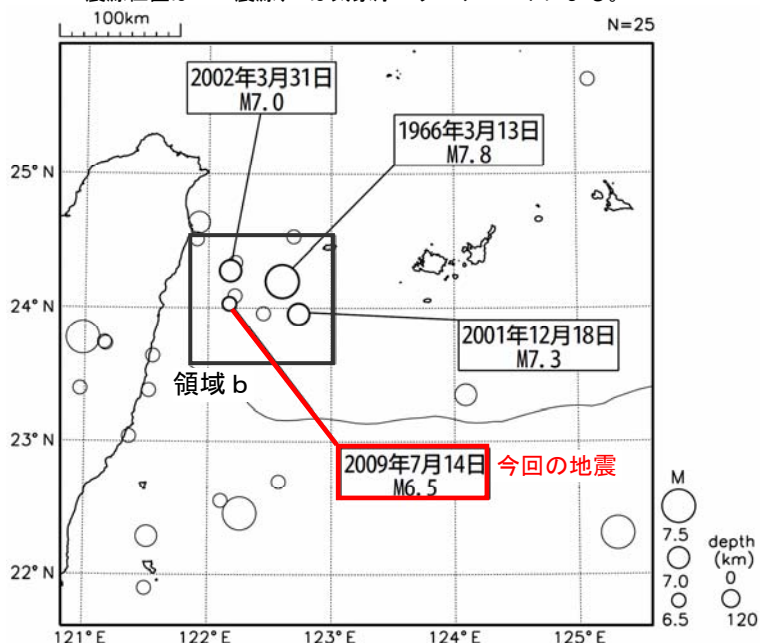
領域 a 内の地震活動経過図



震央分布図

(1965年1月1日～2009年7月31日、深さ0～120km、 $M \geq 6.5$ )

震源位置はUSGS震源、Mは気象庁マグニチュードによる。



1965年以降の活動（左図）を見ると、今回の震源付近（領域 b）はM6.5以上の地震が度々起きている場所である。その中で最大のものは、1966年3月13日に発生したM7.8の地震（国内最大震度5）で、与那国島で死者2名等の被害が出ており、また、沖縄・九州西海岸で津波を観測している（新編日本被害地震総覧による）。